

第 1 問

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	水道光熱費 資本金	21,000 9,000	当座預金	30,000
2	普通預金	600,000	未収金	600,000
3	仕入	95,000	受取手形 買掛金 現金	30,000 60,000 5,000
4	手形貸付金	1,000,000	当座預金	1,000,000
5	消耗品	8,000	当座預金 当座借越	5,000 3,000

【解説】赤字は 新版日商簿記 3 級テキスト 参照ページ

1. 「電気代の支払い」および「純資産の引出し」の仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト P.118 参照

・「電気代¥30,000 が当座預金口座から引き落とされた」より

(借) 水道光熱費 30,000 (貸) 当座預金 30,000

・「このうち 30 % は店主の家事のために使われた」

これは、店のお金が営業以外に使われたことを意味するから、水道光熱費という費用で処理することができない。そこで純資産の減少と考え、資本金勘定（呈示された勘定科目に資本金がないときは引出勘定）の借方に記入する。したがって、借方の水道光熱費は¥21,000 となる。

(借) 資本金 9,000 ← ¥30,000 × 30%

2. 「未収金の回収」の仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト P.109 参照

・先月末に土地を売却したときの仕訳は次のとおりである。

(借) 未収金 600,000 (貸) 土地 500,000
固定資産売却益 100,000

・「本日、代金の全額が振り込まれた」より、未収金（資産）が減少する。

(貸) 未収金 600,000

・「普通預金口座に振り込まれた」より、普通預金（資産）が増加する。

(借) 普通預金 600,000

3. 「商品を仕入れ、および手形の裏書譲渡」に関する仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト P.74, P96 参照

- ・「商品を仕入れ」より、借方が仕入になる。なお、引取運賃（仕入諸掛）は仕入原価に加算する。

(借) 仕 入 95,000 ←¥90,000 + ¥5,000

- ・手形を裏書譲渡（支払期日前の手形を他人に譲渡すること）すると手形債権が減少するので、貸方は受取手形となる。

(貸) 受取手形 30,000

- ・「残額は掛けとした」

この時の「掛」は仕入れたときの掛けであるから、買掛金（負債）である。

(貸) 買 掛 金 60,000

- ・引取運賃は現金で支払ったので、現金が減少する。

(貸) 現 金 5,000

4. 「手形により金銭を貸し付けた」ときの仕訳を問う問題である。 新版日商簿記 3 級テキスト P.107 参照

- ・「¥1,000,000 を貸し付けるため、約束手形を受け取り」より

(借) 手形貸付金 1,000,000

- ・「当座預金より…振り込んだ」より

(貸) 当座預金 1,000,000

5. 「消耗品の処理、および当座借越」に関する仕訳を問う問題である。

- ・「消耗品を購入」および「当店は、消耗品の処理について、購入時にいったん資産として計上」より

(借) 消耗品 8,000

※購入時にいったん費用として計上する場合は借方が消耗品費となる。

新版日商簿記 3 級テキスト P.162 参照

- ・「小切手を振り出して支払った」より、貸方は当座預金 8,000 となる。しかし、「当座預金の残高は¥5,000」しかない。

新版日商簿記 3 級テキスト P.66 参照

そこで、①当座預金の残高（¥5,000）を全額使い

(貸) 当座預金 5,000

②不足する¥3,000 は銀行から借りる（当座借越勘定で処理する）

(貸) 当座借越 3,000

—負債—

第 2 問

【解答】

		仕 訳			
		借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	5	当座預金 受取手形	100,000 150,000	売 上	250,000
	10	仕 入	305,000	当座預金 買掛金	5,000 300,000
	20	買掛金	250,000	当座預金 受取手形	100,000 150,000
	31	当座借越 当座預金 手形売却損	55,000 44,000 1,000	受取手形	100,000

【解説】 補助簿の記入から仕訳を推定する問題である。赤字は [新版日商簿記 3 級テキスト 参照ページ](#)

POINT

- ・日付順に仕訳を考える。そのさい、同じ日付で二つの帳簿にまたがって記帳されている取引があるので注意する。
- ・補助簿に記入されている取引と仕訳の関係

当座預金出納帳

預入欄 (借) 当座預金 ×× (貸) ○ ○ ×× (貸方の勘定は摘要欄から判断する)
引出欄 (借) ○ ○ ×× (貸) 当座預金 ×× (借方び勘定は摘要欄から判断する)

受取手形記入帳

てん末欄以外 (借) 受取手形 ×× (貸) ○ ○ ×× (貸方の勘定は摘要欄から判断する)
てん末欄 (借) ○ ○ ×× (貸) 受取手形 ×× (借方の勘定は他の補助簿等から判断する)

買掛金元帳

貸方欄 (借) ○ ○ ×× (貸) 買掛金 ×× (借方の勘定は摘要欄から判断する)
借方欄 (借) 買掛金 ×× (貸) ○ ○ ×× (貸方の勘定は摘要欄から判断する)

1/5 **当座預金出納帳**

[新版日商簿記 3 級テキスト P.68 参照](#)

- ・預入欄に¥100,000 あることから (借) 当座預金 100,000
- ・摘要欄に「売上げ」とあることから (貸) 売上 100,000

受取手形記入帳

[新版日商簿記 3 級テキスト P.98 参照](#)

- ・てん末欄以外に書かれていることから (借) 受取手形 150,000
- ・摘要欄に「売上げ」とあることから (貸) 売上 150,000

上記の仕訳を合算する

1/10 当座預金出納帳

- ・引出欄に¥5,000 あることから (貸) 当座預金 5,000
- ・摘要欄の「仕入れ、引取費用支払い」とあることから
(借) 仕入 5,000

買掛金元帳

新版日商簿記 3 級テキスト P.85 参照

- ・貸方欄に¥300,000 あることから (貸) 買掛金 300,000
 - ※ 勘定科目が指定してあるので、貸方を東京商店としないよう注意する。
 - ・摘要欄に「仕入れ」とあることから (借) 仕入 300,000
- 上記の仕訳を合算する

1/20 当座預金出納帳

- ・引出欄に¥100,000 あることから (貸) 当座預金 100,000
- ・摘要欄の「千葉商店、掛代金支払い」とあることから
(借) 買掛金 ××①
 -千葉商店-

買掛金元帳

- ・借方欄に¥250,000 あることから (借) 買掛金 250,000
 -千葉商店-
- ・摘要欄に「裏書譲渡、小切手振出し」とあることから (貸) 受取手形 ××②
 当座預金 ××①

ここで、①は¥100,000、②が差額で¥150,000 と推定できる。

受取手形記入帳

- ・てん末欄に「裏書譲渡」とあることから (貸) 受取手形 150,000
- ここでも、上記②が¥150,000 であることがわかる。
上記仕訳を合算する。

1/31 当座預金出納帳

- ・預入欄に¥99,000 が、その直前の 1 月 25 日の段階で貸方残が¥55,000 となっているので、当座借越 (負債) が¥55,000 生じていることがわかる。そこで、当座借越を減少させ、残り¥44,000 を当座預金とする。
(借) 当座借越 55,000
 当座預金 44,000
- ・摘要欄に「割引き」とあることから、次の取引が推定される。
(借) 手形売却損 ××① (貸) 受取手形 ××②

受取手形記入帳

- ・てん末欄に「割引き」とあることから (貸) 受取手形 100,000
- 以上から②は¥100,000、①は¥1,000 である。

第 3 問

【解答】

残 高 試 算 表

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
10 月 31 日現在	9 月 30 日現在		9 月 30 日現在	10 月 31 日現在
74,000	41,000	現 金		
517,000	698,000	当 座 預 金		
526,000	556,000	受 取 手 形		
578,000	601,000	売 掛 金		
42,000	58,000	売買目的有価証券		
315,000	315,000	繰 越 商 品		
9,000		(前 払 金)		
800,000	800,000	備 品		
		支 払 手 形	418,000	472,000
		買 掛 金	375,000	310,000
		前 受 金	14,000	54,000
		貸 倒 引 当 金	29,000	9,000
		備品減価償却累計額	360,000	360,000
		資 本 金	1,000,000	1,000,000
		売 上	6,485,000	6,880,000
		有価証券売却益	7,000	11,000
3,683,000	3,321,000	仕 入		
1,890,000	1,701,000	給 料		
650,000	585,000	支 払 家 賃		
12,000	12,000	支 払 手 数 料		
9,096,000	8,688,000		8,688,000	9,096,000

【解説】9月30日の残高試算表に、10月中の諸取引を加減し、10月末の残高試算表を作成する問題である。

解答手順 赤字は 新版日商簿記3級テキスト 参照ページ

I. 10月中の取引の仕訳を行う。

1. (1) (借) 前払金 30,000 (貸) 当座預金 30,000

(2) (借) 当座預金 40,000 (貸) 前受金 40,000

※「手付金」は前払金勘定（資産）または前受金勘定（負債）で処理する。

新版日商簿記3級テキスト P.110 参照

2. (1) (借) 仕 入 71,000 (貸) 当座預金 71,000
 (2) (借) 仕 入 187,000 (貸) 買 掛 金 187,000
 (3) (借) 仕 入 54,000 (貸) 受取手形 54,000

※手形を裏書譲渡したときは、手形債権が減少するので、受取手形勘定（資産）の貸方に記帳する。

新版日商簿記 3 級テキスト P.74, P96 参照

- (4) (借) 仕 入 39,000 (貸) 支払手形 39,000

※約束手形を振り出したときは、手形債務が増加するので、支払手形勘定（負債）の貸方に記帳する。

新版日商簿記 3 級テキスト P.91 参照

- (5) (借) 仕 入 21,000 (貸) 前 払 金 21,000

※「手付金と相殺による仕入れ」とは、「商品を仕入れ、その代金はすでに支払ってある手付金（前払金）をあてた」ということである。したがって、貸方は前払金となる。

- (6) (借) 買 掛 金 10,000 (貸) 仕 入 10,000

※返品・値引は、仕入または売上取引の反対仕訳を行う。新版日商簿記 3 級テキスト P.75~P76 参照

3. (1) (借) 現 金 38,000 (貸) 売 上 38,000
 (2) (借) 売 掛 金 296,000 (貸) 売 上 296,000
 (3) (借) 受取手形 75,000 (貸) 売 上 75,000

※手形の種類に関係なく、手形を受け取ったときは、手形債権が増加するので、受取手形勘定の借方に記入する。

新版日商簿記 3 級テキスト P.91, P94 参照

- (4) (借) 売 上 14,000 (貸) 売 掛 金 14,000

※「売上戻り」とは、売り上げた商品が返品されたことである。

4. (1) (借) 買 掛 金 80,000 (貸) 当座預金 80,000
 (2) (借) 買 掛 金 92,000 (貸) 支払手形 92,000
 (3) (借) 買 掛 金 70,000 (貸) 売 掛 金 70,000

※為替手形を振り出したときは、名宛人に対する売掛金が減少する。

新版日商簿記 3 級テキスト P94 参照

POINT 為替手形の仕訳パターン

振り出したとき 売掛金が減少する → (借) ○ ○ ○ × × (貸) 売 掛 金 × ×

受け取ったとき 手形債権が増加する → (借) 受取手形 × × (貸) ○ ○ ○ × ×

引き受けたとき 買掛金が減少する } (借) 買 掛 金 × × (貸) 支払手形 × ×
 手形債務が発生する }

- (4) (借) 当座預金 110,000 (貸) 売 掛 金 110,000

- (5) (借) 受取手形 105,000 (貸) 売 掛 金 105,000

5. (1) (借) 支払手形 77,000 (貸) 当座預金 77,000
 (2) (借) 当座預金 156,000 (貸) 受取手形 156,000

6. (1) (借) 売買目的有価証券 42,000 (貸) 当座預金 42,000

※有価証券の取得原価 (¥42,000) = 購入代価 (¥40,000) + 買入手数料 (¥2,000)

新版日商簿記 3 級テキスト P.100 参照

(2) (借) 当座預金 62,000 (貸) 売買目的有価証券 58,000
有価証券売却益 4,000

※・株式を売却したときは、売買目的有価証券 (資産) が減少するので貸方に記入する。
金額は帳簿に記録されている金額 (帳簿価額) である。

・売却価額 (¥62,000) > 帳簿価額 (簿価) (¥58,000) → 有価証券売却益 (収益)

新版日商簿記 3 級テキスト P.101 参照

7. (1) (借) 給 料 189,000 (貸) 当座預金 189,000

(2) (借) 現 金 60,000 (貸) 当座預金 60,000

※仕訳はお店にとって何が増えたか、減ったか?あるいは発生したかを考えて行う。

「現金引出し」はお店にとって現金の増加になる。

(3) (借) 支払家賃 65,000 (貸) 現 金 65,000

(4) (借) 貸倒引当金 20,000 (貸) 売 掛 金 20,000

POINT 売掛金の貸し倒れ

新版日商簿記 3 級テキスト P.150~151 参照

当期に発生した売掛金が当期に貸倒になった	前期に発生した売掛金が当期に貸倒になった
(借) 貸倒損失 ×× (貸) 売掛金 ××	<u>売掛金 < 貸倒引当金</u> (借) 貸倒引当金 ×× (貸) 売掛金 ××
	<u>売掛金 > 貸倒引当金</u> (借) 貸倒引当金 ×× (貸) 売掛金 ×× 貸 倒 損 失 ××

II. 残高試算表の作成

1. 答案用紙の残高試算表の現金勘定から順に、それぞれの勘定の残高を記入する。

【例】現金勘定の残高の計算

「9 月 30 日現在」の残高 (¥41,000) に上記仕訳の (借方) 現金を加算し、(貸方) 現金を減算する。

9/30 現在 3.(1) 7.(2) 7.(3)

¥41,000 + ¥38,000 + ¥60,000 - ¥65,000 = ¥74,000 → 現金勘定の借方に記入する。

支払手形の残高の計算

「9 月 30 日現在」の残高に上記仕訳の (貸方) 支払手形を加算し、(借方) 支払手形を減算する。

9/30 現在 2.(4) 4.(2) 5.(1)

¥418,000 + ¥39,000 + ¥92,000 - ¥77,000 = ¥472,000 → 支払手形勘定の貸方に記入する。

※金額を計算するとき勘定科目ごとに T 字勘定を書いて計算するのも良い。

現 金																					
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="text-align: right;">41,000</td> <td style="width: 50%;"></td> <td style="text-align: left;">5.(1) 65,000</td> </tr> <tr> <td>3.(1)</td> <td style="text-align: right;">38,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7.(2)</td> <td style="text-align: right;">60,000</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="border-top: 1px solid black;"></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; text-align: center;">}</td> <td style="text-align: left;">74,000 (残高は借方に¥74,000 である)</td> </tr> </table>		41,000		5.(1) 65,000	3.(1)	38,000			7.(2)	60,000									}	74,000 (残高は借方に¥74,000 である)
	41,000		5.(1) 65,000																		
3.(1)	38,000																				
7.(2)	60,000																				
		}	74,000 (残高は借方に¥74,000 である)																		

2. 残高試算表の借方合計と貸方合計が一致することを確認する。

第4問 赤字は 新版日商簿記 3 級テキスト 参照ページ

【解答】

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
買掛金	試算表	建物	評価	土地

【解説】

- ・仕入先元帳 … 仕入先ごとの買掛金の明細を記録する補助簿、仕入先の商店名を勘定科目とする人名勘定を用いる。買掛金元帳ともいう。 新版日商簿記 3 級テキスト P.85 参照
- ・試算表 … その他にも問題文に記載されている働きの他に、経営管理という働きもある。
新版日商簿記 3 級テキスト P.38, 42 参照
- ・減価償却の記帳方法には直接法と間接法がある。
 - 〈直接法〉(借) 減価償却費 ×× (貸) 備品 ××
 - 〈間接法〉(借) 減価償却費 ×× (貸) 備品減価償却累計額 ××新版日商簿記 3 級テキスト P.154 参照
- ・評価勘定
 簿記では、ある勘定の借方（または貸方）に記入する代わりに、別の勘定を設けてその借方（または貸方）に記入することが行われる。このように設けられた別の勘定を評価勘定という。
貸倒引当金は売掛金の評価勘定
備品減価償却累計額は備品の評価勘定
引出金は資本金の評価勘定である。 新版日商簿記 3 級テキスト P.149 参照
- ・使用するために購入する土地などの固定資産は、使用できるようになるまでにかかった諸費用（購入にさいして支払った仲介手数料、登記料など）はすべて固定資産の取得原価に加算する。
 つまり、仕訳するときこれらの費用はすべて土地の購入代金に加える。
新版日商簿記 3 級テキスト P.104 参照

第 5 問 精算表を完成する問題である。

【解答】

精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	588,000			8,000			580,000	
当座預金	4,300,000		240,000				4,540,000	
受取手形	360,000						360,000	
売掛金	650,000			50,000			600,000	
貸倒引当金		25,000		3,800				28,800
売買目的有価証券	400,000		37,000	200,000			237,000	
繰越商品	450,000		400,000	450,000			400,000	
備品	500,000						500,000	
備品減価償却累計額		200,000		50,000				250,000
支払手形		300,000						300,000
買掛金		450,000						450,000
仮受金		50,000	50,000					
借入金		2,000,000						2,000,000
資本金		4,000,000						4,000,000
売上		11,000,000				11,000,000		
受取配当金		25,000				25,000		
仕入	7,200,000		450,000	400,000	7,250,000			
給料	2,160,000				2,160,000			
支払家賃	1,080,000			210,000	870,000			
通信費	96,000				96,000			
水道光熱費	168,000				168,000			
租税公課	38,000				38,000			
支払利息	60,000		21,000		81,000			
	18,050,000	18,050,000						
雑(損)			8,000		8,000			
有価証券売却(益)				40,000		40,000		
貸倒引当金繰入			3,800		3,800			
減価償却費			50,000		50,000			
有価証券評価(益)				37,000		37,000		
(前払)家賃			210,000				210,000	
(未払)利息				21,000				21,000
当期(純利益)					377,200			377,200
			1,469,800	1,469,800	11,102,000	11,102,000	7,427,000	7,427,000

解答の手順 赤字は 新版日商簿記 3 級テキスト 参照ページ

[決算整理事項]

1. 現金過不足の処理

(借) 雑 損 8,000 (貸) 現 金 8,000

※・決算日に過不足が判明し、その原因が不明のときは、現金過不足勘定には記入しないで、雑損勘定または雑益勘定で処理する。
新版日商簿記 3 級テキスト P.169 参照

・帳簿残高¥588,000 (残高試算表より) より実際有高¥580,000 が¥8,000 不足 (現金不足) であるから、不足額を雑損勘定で処理する。

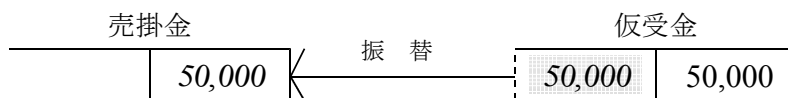
2. 株式売却取引の未処理が判明した。

(借) 当座預金 240,000 (貸) 売買目的有価証券 200,000
 有価証券売却益 40,000

3. 仮受金勘定の処理

(借) 仮 受 金 50,000 (貸) 売 掛 金 50,000

※仮受金で記帳しておいた内容不明の入金の原因が、売掛金の回収であることが判明した取引である。



新版日商簿記 3 級テキスト P.113 参照

4. 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入 3,800 (貸) 貸倒引当金 3,800
 -費用- -受取手形・売掛金の評価勘定-

※ 貸倒引当金繰入額

受取手形期末残高 ¥360,000 (残高試算表)

売掛金期末残高 ¥600,000 (残高試算表 未処理事項 3.
 ¥650,000 - ¥50,000)

貸倒引当金繰入額 $\frac{(\text{¥}360,000 + \text{¥}600,000)}{\text{受取手形} \quad \text{売掛金}} \times 3\% - \text{¥}25,000 = \text{¥}3,800$
 貸倒引当金残高 (残高試算表)

新版日商簿記 3 級テキスト P.148 参照

5. 売上原価の計算

(借) 仕 入 450,000 (貸) 繰越商品 450,000 … 期首商品棚卸高 (残高試算表「繰越商品」)
 (借) 繰越商品 400,000 (貸) 仕 入 400,000 … 期末商品棚卸高 (問題文に指示)

新版日商簿記 3 級テキスト P.143~144 参照

6. 売買目的有価証券の評価替え

(借) 売買目的有価証券 37,000 (貸) 有価証券評価益 37,000
 - 収益 -

時価 帳簿価額 残高試算表 決算整理事項 2. 評価益
 $\text{¥}237,000 (100 \text{ 株} \times \text{¥}2,370) - \text{¥}200,000 (\text{¥}400,000 - \text{¥}200,000) = \text{¥} 37,000$

新版日商簿記 3 級テキスト P.159 参照

7. 減価償却費の計上 (定額法)

(借) 減価償却費 50,000 (貸) 備品減価償却累計額 50,000

※減価償却費の計算 (定額法)

$$- \frac{\text{取得原価 } \text{¥}500,000}{10 \text{ 年耐用年数}} = \text{¥}50,000$$

新版日商簿記 3 級テキスト P.152 参照

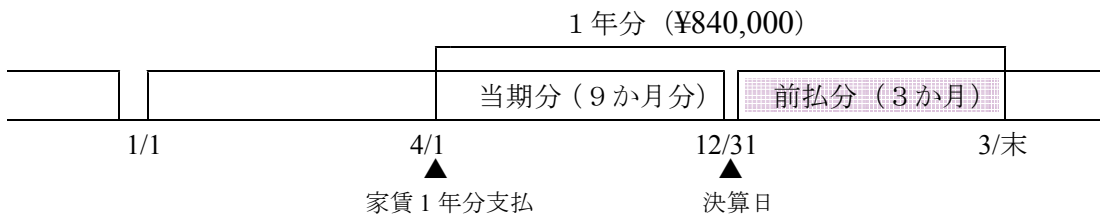
8. 前払家賃の計上

(借) 前払家賃 210,000 (貸) 支払家賃 210,000
 - 資産 -

※家賃のうち¥840,000 は 4 月 1 日に向こう 1 年分を支払ったものである。

したがって、次年度の 3 ヶ月分が前払いになる。そこで、前払分を支払家賃勘定 (費用) から差し引くとともに、次期に繰り越すために前払家賃勘定 (資産) に計上する。

$$\text{前払保険料 } \text{¥}840,000 \times \frac{3 \text{ ヶ月 (前払分)}}{12 \text{ ヶ月}} = \text{¥}210,000$$



※ 前払家賃勘定が資産であることをしっかりと理解する。

新版日商簿記 3 級テキスト P.160 参照

9. 未払利息の計上

(借) 支払利息 21,000 (貸) 未払利息 21,000
 - 負債 -

$$\text{未払利息 } 2,000,000 \times 4.2\% \times \frac{3 \text{ ヶ月 (未払分)}}{12 \text{ ヶ月}} = \text{¥}21,000$$

※ この 1 年間ずっと現金を借りているが、利払日が 9 月末日と 3 月末日のため、10 月 1 日から決算日までの利息は未払である。そこで、未払額を当期の費用として支払利息勘定に計上するとともに、未払利息という負債の勘定を設けてその貸方に記入する。



※ 未払利息勘定が**負債**であることをしっかりと理解する。

新版日商簿記 3 級テキスト P.165 参照

— 精算表を作成する —

(1) 勘定科目ごとに、残高試算表欄の金額と修正記入欄の金額を加減し、その結果を損益計算書欄または貸借対照表欄に記入する。そのさい以下のことに注意する。

①金額を加減するとき、貸借同じ側にある金額は加算し、反対側にある金額は減算する。

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	450,000 ①		400,000 ②	450,000 ③			400,000 ④	

※ 450,000 (①) と同じ借方にある 400,000 (②) は加算し、反対側にある 450,000 (③) は減算する。

②資産・負債・純資産の各勘定は貸借対照表欄に記入し、収益・費用の各勘定は損益計算書に記入する。

(2) 精算表を作成するにあたって次の勘定科目が何の勘定か間違えないようにする。

前払家賃 … 資産

未払利息 … 負債

雑損・有価証券売却益・貸倒引当金繰入・減価償却費・有価証券評価益など … 費用

・貸倒引当金勘定は売掛金および受取手形の評価勘定であり、減価償却累計額は備品および車両運搬具の評価勘定である。精算表を作成するときはいずれも負債の側に記載する。(第4問、解説参照)

(3) 損益計算書欄および貸借対照表欄の借方・貸方の金額をそれぞれ合計し、その差額を当期純損益の行のそれぞれ金額の少ない側に記入する。なお、

① P/L (損益計算書) の借方と B/S (貸借対照表) の貸方に差額を記入したときは、差額を記入したと同じ行の勘定科目欄に「当期純利益」と記入する。もし、P/L の貸方と B/S の借方に差額を記入したときは当期純損失となる。

②各欄の借方・貸方の金額を合計し、合計金額を記入する。